

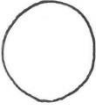



セルフチェックシート


(卒業生の自己分析を基に職員が作成しました。)

状況

方針の要約

	<p>対称面を切り出して、そこを座標に乗せる</p> <p>(1) 1つの面とのコリは可く出るの2... もう1つを求める. 平面直交ベクトル利用2目標をベクトルを伸ばして計算</p> <p>(2) 2つの点の2つのコリを比べるコレ</p> <p>思いにより計算がハッピー. もう少し幾何で圧縮できるはず</p>
---	--

	<p>より具体的に考えれば、白から始まる順列と赤から始まる順列の数を比較して直接得られる。Pnを出さずに構造分解の途中で白スタートと赤スタートを別関数でおくしかない。あるいは $a_n + b_n = P_n$ 及び $a_n + b_{n-1} = P_{n-1}$ みたいな数列というわけでもない。bnの項間には1だけ差がある計算がある。問題解決も Pn 求値がなるとから根本的な方針を立てる。</p>
---	---

	<p>1. 2018年問題の解法を忘れたらどうする</p> <p>$P(x, y)$ 通る点</p> <p>$Q(x, y), M(\cos\varphi, \sin\varphi)$</p> <p>$N(\cos\theta, \sin\theta)$</p> <p>$Q$ は OP 上, Q は MN の中点</p>	<p>$\therefore Y = \frac{2}{c} X, X = \frac{\cos\theta + \cos\varphi}{2}, Y = \frac{\sin\theta + \sin\varphi}{2}$</p> <p>--- (1) --- (2)</p> <p>θ は OP 上 $\theta = \varphi$ 1. M は $\sqrt{2}$ の点</p> <p>$\rightarrow \triangle OMP \sim \triangle OAM$ の相似 (1), (2) より</p> <p>$\rightarrow X = \frac{2}{c + \varphi}, Y = \frac{2}{c - \varphi}$ (2)</p> <p>$Y = 2018, X = 2018$</p>
---	--	--